

特別支援教育実践マニュアル

<No.21>

～学級でできる読み書き支援～

特別支援教育実践マニュアル〈No. 21〉をお届けします。

どの学級にも「教科書をすらすら読めない」「黒板を視写するのに時間がかかる」「漢字を覚えられない」など、文字の読み書きに困難さのある子どもがいます。

そうした子どもたちは、先生の話聞いて理解することができ、会話は流ちょうなために、周囲からは「本人の努力不足」と受け取られてしまうことがあります。文字の読み書きの困難さは、学習意欲の低下だけでなく、自己肯定感を支えることが難しくなり、不登校の一因になることもあります。

No.21では、読み書きに困難さのあるお子さんが、どういうことに困っているのか、その支援方法について紹介します。

1. 文字を「見て」「覚えて」「書く」ために必要な力
2. 学級の中でできる読み書き支援
3. 見え方に関する合理的配慮の提供に向けて



文字を「見て」「覚えて」「書く」ために必要な力

視知覚の力



形を見分ける力



「め」と「ぬ」

「れ」と「わ」

追視

文字を目で追うことができる力

ピントを合わせること

聞き分ける力



似た音を聞き分ける力

はち
「蜂」と
はし
「橋」

「たぬき」は「た」「ぬ」「き」という3つの音でできているよ。



「たぬき」を反対から読むと、「き」「ぬ」「た」だ！

ことばを音の単位で自由に操作する力を「おんいん音韻」認識といいます。

「たぬき」の「た」を抜いたら、「ぬき」になるね。

記憶する力・思い出す力



何度も見直さないと、ノートに写せない。

ワーキングメモリ

見聞きしたことを覚えておいて表出する力

運筆する力（手先の巧緻性）



目で見たものに合わせて、指先をコントロールする力

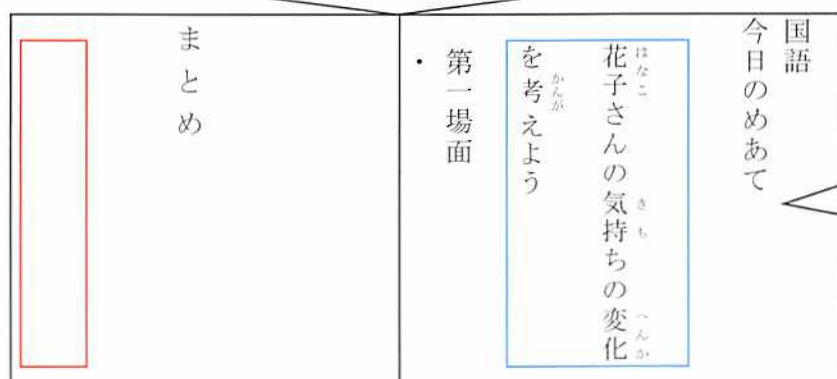
文字の大きさやバランスよく形を描ける・マス目の中に文字を書ける等

学級の中でできる読み書き支援

その子どもに合った支援方法を提案しましょう！

板書の配慮

黒板は半分に区切り、時間差で使用



板書の量は少なめに
文章は短く簡潔に

- ・ 枠の中だけノートに写す
- ・ 写す部分を色チョークで囲む（青・赤・黄色など）

書く時間の確保

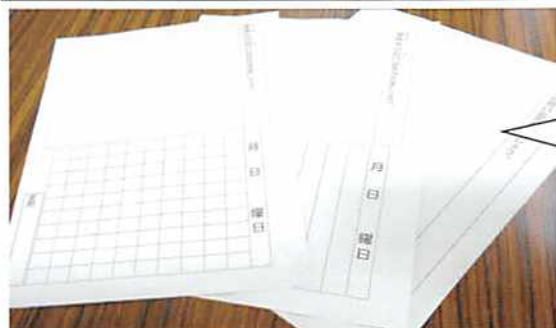
指示をはっきりと

「説明を終わります。」

「ここから、ここまでをノートに書いてください。」



補助プリントやワークシートを使用

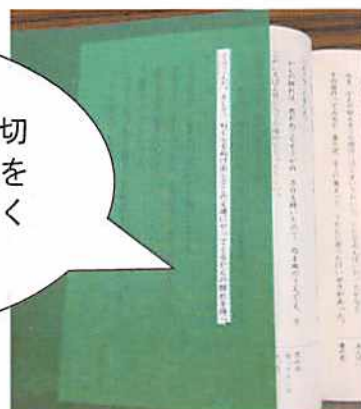


マス目、罫線、白紙の3種類を準備し、自分が書きやすい形式を選んでもらう。

音読にはスリットを使用

クリアファイルを切り抜いてスリットを入れると、読みやすくなります。

ICT機器の利用



板書をカメラで撮る・デジタイズ教科書で読み上げるなど

見え方に関する合理的配慮の提供に向けて

見え方に困難さがあることに気がいたら

平成 28 年度より、教育研究センター内に県立特別支援学校のサテライト教室が開設されました。指導実施日には、見え方の教育相談を行うことができます。



拡大読書器を使って

自分の見やすい文字の大きさに設定
できます。

白黒反転機能を使うことで、白い部分
の明るさを抑え、見やすい環境を整え
ることもできます。

見え方チェック表

- 慣れない場所では、動作がとても慎重になる
- 極端に近づいてものを見る
- 暗い（明るい）所から明るい（暗い）所になると行動が止まる
- 目の前でおもちゃを見せても、目で追ったりつかもうとしたりしない
- 眼鏡をかけて教室の一番前に座っても、黒板の文字が見えない
- 教科書の文字が見えにくい
- 本を読むとき速度が遅く、文字をとばしたり、行を間違えたりする
- 視力が低下し、将来の進路や現在の状況が続けることに悩んでいる
- 図形を理解しにくい
- 上下左右の認識が苦手である
- 鏡文字を書く
- 色の区別がつきにくい

上記のチェック表を参考にして、気になることがありましたら、
教育研究センターまたはまなびサポート相談室までご相談ください。

教育研究センター

浦安市富岡 1-1-1(富岡小学校内)
381-7960・381-7961

まなびサポート相談室

浦安市弁天 3-1-1(見明川中学校内)
390-5204